

月例研修会

信貴山朝護孫子寺

信貴山城跡の桜を見る



戸田 博子

2022 年度・月例研修会第一回目の行事

4月5日(火)快晴、無風で絶好の花見日和になった。参加者は27名で、ここ2年の月例



研修会の中で最も多く、良いスタートになった。桜も満開に近く、天気も良いのでバスは満員、

20分程で信貴山大橋に到着した。バス停には、お願いしていたボランティアガイドの益田さんと平川さんが迎えて下さり、参加者は2班に分かれて10時に朝護孫子寺に向かって出発した。

信貴山の山門は迫力ある仁王様(左右が逆というお話)を見上げ、猪上神社の横を通り、名物の「大寅」の前では、写真撮影の順番待ちだ。

赤門を抜けると「かやの木稻荷」では、樹齢1500年の神木榎の木があった。聖徳太子の時代から生きているわけだ。巨大な榎だった。

この辺りから徐々に階段の登りになり、参加者は少しバラバラになったが、やっと毘沙門天を祀る本堂に到着した。ガイドさんから、百足



は毘沙門天のお使いとの話を聞き、改めて本堂の彫物を見た。説明されなければ、見逃していたと思う。

本堂からはお寺全体が見え、桜の桃色、樹々の若葉の黄緑、風にはためく赤い幟のぼり、清水寺の舞台に引けを取らない美しさだった。

本堂地下の戒壇巡りは全く見えない真っ暗闇の空間だ。真ん中辺りに「如意宝珠」が納めら

れた錠前に触れると心願成就の利益があるということで、みんな壁を探りながら歩いた。

本堂横の霊宝館で「信貴山縁起絵巻」を鑑賞したが、時間が足りなくて残念だった。

ここでボランティアガイドの方と別れた。

11時20分信貴山空鉢護法堂(信貴山城跡・標高437m)を目指して、12時に全員登り切った。護法堂を少し下ったところに、開けた場所があり、そこで昼食花見の宴の始まりだ。

密を避けるため集まってお弁当は広げられなかったけれど、同じ景色を見て、食べたり飲んだりするのは楽しいことだ。意外と他の登頂者は少なかったのが、当会貸し切り状態になった。



偶然にも、シニア自然大学校の鉱物クラブのメンバーで、当会エコ班の古結さんが私たちに声をかけられた。久しぶりの再会になった。

13時30分に信貴山を降りる予定だったが、半数近くが松永屋敷跡など午前中見られなかった所に行きたいとの希望で、先に出発した。

信貴山門バス停14時59分に集合で、自由に歩いてもらったのだが、バス停名が紛らわしく朝に降りた信貴大橋の方に行ってしまう方々が13名おられた。同じ経路ではあるが、会の世話人としては、確認が甘かったと反省している。でも、まずは天候に恵まれ、疲れはありながら全員が無事お花見を楽しみ、一人で行くのと違う経験をされたと思う。

次回6月のアジサイの花見も、皆さまのご参加をお待ちしています。



百足の彫物